

1. 授業のねらい・概要

本講義では、経済のグローバル化に伴い、日本とアジアの経済的関係が一層深まる中、国境を越えたモノやカネの動きが活発化しているが、まず、そのような実態を理解するべく、国際貿易、国際金融、経済発展に関する基本的な考え方を伝授する。その上で、今後の日本経済のあり方を視野に入れつつ、世界経済におけるアジアの位置付け、アジアの経済発展と工業化、直接投資や開発援助を通じたアジアに対する日本の役割、日本の対アジア戦略、東アジア共同体形成の行方等に焦点を当てて学習していく。これらを学ぶことで、グローバル化が進展する中で、日本が成長著しいアジア諸国を取り込みながら、共に発展していくべき意義と重要性を把握する。

2. 授業の進め方

学生諸君が興味を持ってくれるような講義とするべく、最新のニュースを取り上げたり、担当教員の実務・海外経験を話に交えたりする等の工夫を凝らす。さらに、より主体的な姿勢がより良い理解に繋がるので、日頃から、メディアで世界の経済・社会情勢をフォローしておくことを強く薦める。また、数回、受講生に小課題を課すことで、理解度を確保することとしたい。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 最近のアジア経済の動向①（東南アジア）
2. 国際貿易の仕組みと WTO 体制	10. 最近のアジア経済の動向②（中国・インド）
3. 経済発展の要因とメカニズム	11. 日本の対アジア戦略①（貿易）
4. 国際収支と外国為替取引	12. 日本の対アジア戦略②（環境・CSR）
5. アジアの経済発展と工業化①（輸入代替工業化）	13. 日本の対アジア戦略③（観光・クールジャパン）
6. アジアの経済発展と工業化②（輸出志向工業化）	14. 東アジア共同体形成の行方
7. アジアに対する日本の開発援助	15. 本講義の総括
8. アジア通貨危機の発生と IMF の対応	

4. 到達目標

アジアの経済発展の要因を詳細に理解しつつ、日本がそれをどう捉えるべきか、その成長をいかに取り込むべきかという視点を特に養い、複眼的思考でアジア経済を分析できることを目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

レジュメを当日配布するため、準備学習は不要だが、むしろ、講義内容を振り返りながら、復習を行うことが重要。

6. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）及び期末試験（70%）にて、総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。毎回の授業時で必要なレジュメを配布する。参考文献は講義の中で適宜紹介していく。

8. 受講上の留意事項

履修条件は特になし。講義中は、私語は慎み、解説を聞くだけでなく、補足情報もノートすること。平常点が著しく悪い場合は、期末試験を受験できないことがある。また、留学生には、経済学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。